



柏葉



学校だより 第33号
 令和6年 1月12日(金)
 福島県白河市立東北中学校
 発行責任者 校長 渡邊泰昌
 「自分の未来を切り拓け！」

自分事として考える



令和6年 元旦



元旦の太陽に照らされた校舎

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。いよいよ令和6年がはじまりました。保護者の皆様、そして、子ども達にとってすばらしい年になりますよう祈念申し上げます。表題に書いたものは、3学期始業式で生徒の皆さんに伝えた内容です。

年の始めから大きな自然災害や事故が相次ぎました。元旦に発生した令和6年能登半島地震では多くの人が亡くなり、今でも潰された家屋の中に閉じ込められている人が数多く残されています。

私たちは、このことをテレビや新聞、SNSで知って、人として何が求められているのでしょうか？もちろん、人命救助、そして、復旧までのボランティア活動が必要だと分りますし、現地に行くことができれば、少しでも役に立ってもらえるように募金活動など考えられるものは全て考えていかなければならないと思います。

私は、皆さんにぜひ身につけてほしいと思う考え方は、「自分事として考える」ということです。「被災した方々の気持ち」や「何で困っているのか」など考えることが大切です。

このような「自分事として考える」をキーワードにして、身近な人たちとの関係の中でや、世界で起っていることなどをこれから考えていくと、とても思慮深い人になり、魅力的な人になっていくんじゃないかと思います。。。。

詩・100文字 提案作品集受賞作品

日本赤十字社福島県支部では、毎年、「子ども達が実践していること、思っていること」を100文字で表現した作品を募集しています。東北中学校では、国語科の指導の下、多くの生徒が応募し、受賞しました。これから紹介していきます。



「世界の見知らぬ友へ」
 会話をしよう。翻訳
 機を、ペンを、ジエス
 チャーを。持てる全て
 を駆使して、小さなこ
 とを話題にして、全員
 が楽しめる会話をしよ
 う。
 私達を隔てる広い海
 も、異なった言語も、
 きつと私達の前では壁
 にもならない。

わたしの青少年赤十字
 詩・百文字提案受賞作品
 「いのちの詩・愛の詩」
 日本赤十字社福島県支部
 長賞
 白河市立東北中学校
 三年 佐久間柑奈